ANNA KARINA
dans
un film de
JEAN-LUC GODARD

avec
MICHEL SUBOR et **LASZLO SZAB**
directeur de la photographie
RAOUL COUTARD
musique de
MAURICE LEROUX

le PETIT SOLDAT

1960 / FRANCE / B&W / 88mins
ce film est offert par R o u g e v i f
distribué par N.S.W.

小さな兵隊 JLG film N.S.W. Vol.1

le PETIT SOLDAT

ANNA KARINA avec MICHEL SUBOR et LASZLO SZAB dans un film de JEAN-LUC GODARD directur de la photographie RAOUL COUTARD musique de MAURICE LEROUX

私の周りを2、3歩歩いてみて　よろしいあなたに主役をやってもらいます　シナリオはありません　しかしいずれにせよ脱ぐ必要はありません　これは政治的な映画ですから　私が政治的な映画にですって　心配いりません　私が全部面倒を見ます　明日また来て、契約書にサインして下さい

役を買うためにあなたと寝た娼婦だとは思われたくないから　もう映画には出ません　降りるのはもう不可能です　あなたはサインしたのだから　アンデルセンのおとぎの国の少女が涙なんて流してはいけません

J.L.ゴダールの「勝手にしやがれ」に次ぐ長編第二作。アンナ・カリーナとのコンビによる第一作。＜スパイ＞と＜恋愛＞とを描くゴダール異色作品。ニュープリント、新訳で約30年ぶりにスクリーンに甦る。

フォトグラファーとスパイ。ふたつの肩書きを持つブリュノ。
●彼は5分で恋に落ちたヴェロニカをモデルに写真を撮る。
●彼は組織の罠にはまりジャーナリストの暗殺を強要される。
暗殺をためらい、二重スパイの嫌疑をかけられたブリュノは、ヴェロニカとの逃亡を試みるのだが…

愛と政治のふたつの戦線の闘争が、青春の苦悩のように描かれる。

愛とはアンナ・カリーナだ。「ジャン・ジロドゥーのヒロインのように」若くみずみずしく、「ひと目見たらキスしたくなる、レスリー・キャロンのようなくちびる」の女の子だ。「パウル・クレーの絵のような暗い青空」の下で、「ベラスケスのグレー」に近い瞳に見つめられ、主人公は超高度フィルム、アグファレコードに、女の「顔のうしろにある魂」まで映し撮ろうと思う。「写真が真実をうつすとしたら、映画は毎秒２４倍も真実だ」とつぶやきながら―。

愛は失われ、短かい短かい魅惑と砕け散った思い出。

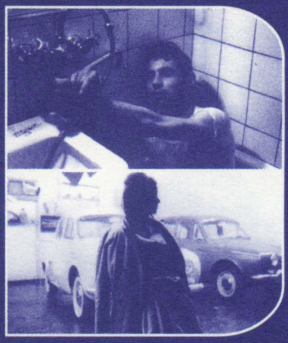
政治とはアルジェリア戦争だ。だが、主人公は兵役忌避者、つまりは脱走兵である。「現実と虚構が一体になった」美しい死にあこがれ、「死を告げる夜明けのラッパが鳴りひびく」瞬間を待つために暗い夜を眠らずにすごし、拷問に耐えて使命に殉じたレジスタンスの闘士のヒロイズムを羨み、「人間の条件」を追求しつつ、テルエルの山々の長い長い葬列を「悲劇の幻覚」とともに忘れまいとしても、戦列に加わって死に向かうことのできる「希望」もない。彼は、もはや死ぬべき戦場すらない小さな兵隊だ。

「１９３０年代の若者たちには革命があった。マルローやドリュ・ラ・ロシェルやアラゴンには。だが、ぼくらには何もない。彼らにはスペイン戦争があった。だが、ぼくらには、ぼくら自身の戦争さえないのだ」と主人公は慨嘆する。

映画全体が遅れて来た青年の果てしないノスタルジックなモノローグに終始する。「ぼくにとって、行動の時代は過ぎ去った。ぼくは年をとったのだ。思索の時代がはじまる」という冒頭のモノローグから、「あとはいつまでも悔いを残さずに悲しまないことを学ぶことだった。だが、それでよかったのだ。なぜなら、ぼくの前には、まだたくさんの時間が残されていたからだった」というラストのモノローグまで、青春の挫折をめぐる生き残った者のやましさと苦渋にみちた饒舌な「思索」の連続である。

ヌーヴェル・ヴァーグの衝撃作、『勝手にしやがれ』に次ぐジャン＝リュック・ゴダール監督の第２作であった。そして、２０歳のアンナ・カリーナのデビュー作になるはずであったが、映画はアルジェリア戦争批判のかどで２年半も公開禁止になったため、ゴダールの第３作『女は女である』のあとに陽の目をみることになったいわくつきの作品でもある。

山田宏一



小さな兵隊　Le Petit Soldat
● 監督・脚本：ジャン＝リュック・ゴダール
● 撮影：ラウル・クタール ●音楽：モーリス・ルルー
● 製作：ジョルジュ・ド・ボールガール
● 出演：アンナ・カリーナ（ヴェロニカ）／ミシェル・シュボール（ブリュノ）／ラズロ・サボ（ラズロ）／ポール・ボーヴェ（ポール）
● 字幕監修：山田宏一 ● 字幕：寺尾次郎
● 1960年 / フランス映画 / B&W / 88分
● 協賛：Rouge vif
● 配給：N.S.W.

5/1(sat)〜5/14(fri)
3:05/4:50/6:35　ロードショー上映!!

5/15(sat)〜6/4(fri)
PM8:30　レイトショー上映!!

料金/前売券1400円(当日一般1700円;当日学生1400円)

ホワイティ梅田泉の広場M-10右上がる東へ5分
扇町ミュージアムスクエア
☎06-6361-0088 ●www.oms.gr.jp